



# Ho! ManaBU しんぶん

2011.1.14 No.26

子どもの笑顔に会うために！



明けましておめでとうございます。Ho! ManaBU にとって3度目の新年のご挨拶となります。本年も昨年同様、よろしくお願いいたします。

## どんなワークショップだったのかな？-2

～2年目のワークショップの様子を「会話形式」で～

前号のしんぶんに引き続き、2年目のHo! ManaBU プロジェクトワークショップ（以下：WS）の様子を、3人の会話形式で紹介します。

（Fira：野邊・Hawi：五十嵐・Bashadu：廣瀬）

**F:** 前回のしんぶんでは、結局WSの内容に入る前に終わってしまったので、今回はどんな様子だったのか協議しましょう。1日目は「Ho! ManaBUとは？」「統計管理」「情報共有」、そして2日目が「新ITP教材を活用した研修：Discover our school」のファシリテーター研修（TOT）というプログラムでしたよね。けどその前に、県教育事務所（ZEO）担当官へのWSについて話しましょうか。



ZEO 担当官へのWSに参加したマルガOEB 副局長

**H:** 今年は新たにZEOの担当官を対象としたWSを、北ショア県対象WSと同時に実施し、その後の、県レベルでのWSの進行に積極的に参加してもらったんですね。分権化が進んでいる中、総じてZEOの存在意義は薄いけど、やはり県の行政官がピシッとまとめてくれると、WSがしまってくるし、Ho! ManaBUはオロミア州教育局（OEB）が実施している、ということを理解してもらうにも有効ですよ。ただ、やはり昨年同様、担当官の能力や参画にはばらつきがありました。ZEO担当官の巻き込みは今後も継続して、だんだん根づかせていくことが大切だと思います。

**B:** 確かに、今回のWSで課題だと感じたことは、各ZEO担当官の能力・やる気の差です。ある県では、ほとんどの参加者が、WS会場まで4～5日もかかるような遠い地域から来ていたのですが、ZEO

担当官の見事な調整のおかげで、その県の参加者は全員、WSに必要なすべての資料を持参し、WSの開始30分前に会場に来てスタンバイしていました。一方で、WS開始時間になっても、半数以上が来ていない県もあり（WSの情報を数日前に受け取ったなどの理由）、ZEOの調整力の差が浮き彫りになりました。一方で、WSを通して、ZEO担当官の進行役としての潜在力の高さも感じることができました。事前に同じWSを受けてもらい、自分の県のWSの際には、進行役になって下さいとお願いしていましたが、実のところ、私はあまり期待していなかったのです。しかし、蓋を開けてみると、ZEO担当官はWS中も積極的にグループを見て回ってコメントしたり、適宜WSの中でインプットしてくれたり、進行役としての役割をきちんと認識していました。来年のWSでは、ZEO担当官の役割をさらに大きくして、彼らに進行役を全権委譲してもいいのかなと感じました。

**F:** そうだね。来年はZEO担当官だけを集めてWS進行に絞った研修を先に開催し、第1回目のWSの進行を彼らに任せるのも一案かな！もちろん、プロジェクトスタッフや我々も、進行のアシストするけど...。ただ、頻繁な人事異動と「にらめっこ」しながらだけだね。



2日間のWSを終えた翌朝、ハスターミナルでバスを待つケラムフレカ県からの参加者。赤いHM研修バッグに注目！

### <「統計管理」「情報共有」>

**F:** では、第一日目の「統計管理」「情報共有」に移りますか？「統計管理」では、自分の学校の5年間の学年ごとの就学者・中途退学者などの統計を持参してもらい、その統計について協議しました。「2008年度の1年生は、2009年度には2年生になり、そして2010年度には3年生になる」ことを

確認し、「その児童数が、333名（1年生）・180名（2年生）・277名（3年生）と推移し、中途退学者0名」という、プロジェクト対象校の例を紹介した時は、大きな声で笑っていた参加者が、実際、自分たちの学校データを見て、先例とあまり遜色がなく、ショックを受けた時の顔は忘れられないね。

**B:** 参加者が、自分の学校のデータさえ、きちんと管理できていないことを今回のWSを通して気づいたことは大きな一歩だと思います。自分で「気づいた」からこそ、分析の後に渡した統計管理のためのサンプルのフォーマット紹介の際には、参加者の目は真剣そのもの。「もっとこうしたらいいのでは！」などと積極的な意見が飛び交いました。これを機に、もう一度、統計管理の重要性と、その適切な方法を自分たちで考えていってもらえれば嬉しいなと思いました。

**H:** 統計管理のセッションは面白かったですね。参加者が持参した自分たちの学校の統計を使ったので、とても現実的だったと思います。それにしても、よくもこれだけ数値を取っているなど感心しましたが、悲しいかな質については課題山積ですよ。参加者も統計を見返しながら、矛盾には気がついてきたようで、「目からうろこ」という感じだったようです。今回のWSでの参加者の反応や議論を、OEBと共有しながら、中途退学の明確な定義、中途退学と転校との区別、児童の登録期間の統一などについて政策レベルからの改善策を検討するよう提言していくアプローチ。それから、プロジェクトで供与したコンピュータを使って技術面での統計管理支援というアプローチ。2つの側面からのアプローチが可能なのではないかと感じています。統計収集という土台はすでにあるからこそ、きちんとしたデータ収集管理能力を身につけてほしいなと痛感します。

**F:** 正直言って、熟考して用意したコマではなかったで、どっちに転ぶか不安だったけど、思った以上の食いつきに、ビックリしてしまいましたけど...



WS出席率は高かったけれど、女性の参加者は今年もわずか7.7%でした。

**H:** 「情報共有」は身近な課題であるがゆえに、盛り上がりました。教育行政官の合言葉、「私は知らない、新任（後任）だから。」は普段は腹が立つ言葉なのですが、このコマでうまく使わせてもらいました（笑）。「新任」を言い訳にして「知らない」「やらなくてもよい」のが当たり前。一方、新任でも自分の給与や日当については知らないはずないし、新任でもHo! ManaBU研修（HM研修）をきちんと引き継いで実施しているCRC担当官や校長もいます。こんなところを議論の切り口として情報共有ができない理由（うっかり忘れる・情報発信側と受け手側の情報に対する認識の違い・他の人に知らせたくないなど）や改善案（ファイル管理の徹底・ガイドラインの作成など）など、ざっくばらんな意見が出ました。プロジェクトが計画している情報共有ガイドラインへのフィードバックとして活用したいと思いました。

**B:** 全体を通して、研修参加者は「情報共有」の必要性を十分に理解しており、その方法についても、ある程度わかっていたようです。しかし、その方法を実際に具体的に実施する手段が欠けているのではないかというのが印象でした。

**F:** 情報共有の基礎を知ってもらうために、いろんな資料が無造作に重ねてある写真（右上）ときちんとファイルされている写真（下）を見せたけど、写真を見た時の反応はおもしろかったね。上の写真では参加者全員が苦笑いしていたし...、下の写真では大きく頷いていたし...。けど、こういう身近なところから、「情報共有」する環境整備の大切さを知ってもらえたんじゃないかな。本当に一歩ずつという感じだけど、その最初の一歩目が重要なんだよね。



<TOT「Discover our school」>

**F:** さて、2日目の「Discover our school」のTOTの反応はどうでしたか？

**H:** 去年の3つのHM研修は主に地域住民の「気づき」をテーマにしたものだったけれど、今年は学校側の参画を促すという点で、昨年とは大きく異なっていて、参加者の反応はいろいろでした。シート上に折れ線グラフのように反映された学校運営の現状を興味深く観察する人、



\*Ho! はオロモ語でHoggansa（運営）の最初の二文字、ManaBUはMana Barnoota Ummataa（コミュニティの学び舎）の略で、本プロジェクトが支援する地域社会に根ざした小学校運営のことです。

事例をもとに現状把握から分析までの議論の展開の仕方を学んで、大いに納得する人がいた一方、「どうしてこんなに長いプロセスを踏むのか?」「この研修はまず教員の態度変容を促して、学校改善を狙っているものではないか?」でも、私の学校は都市部のマンモス校。教員は日常業務に忙しいし、他の研修参加の機会も多いので、このような日当なしの研修への参加を奨励するのは難しい。どうしたらよいのか?」と、教員を巻き込んだ分析作業への戸惑いを感じる人などなど…。地域住民の自発的な学校運営を目指す過程で、地域住民に依存するだけでなく、学校側が自分たちの役割をきちんと自覚し、学校運営に取り組めるようになるには、このプロセスはとっても大切だと思う。「面倒くさい」と思ってしまうか、「よし、頑張ろう!」と奮起してくれるか、プロジェクトチームとしても学校側がどんな風に反応するのかしっかりモニタリングしたいですね。

**B:** 確かに、現状把握から分析までの議論がとても長いプロセスのように感じた参加者もいたようです。ただ、多くの参加者からは、概してこの研修は、地域住民にとって楽しく学校のことを考える機会を提供できると好評でした。自分の学校に戻って、地域住民を集めてこの研修を実施するのが楽しみだとの意見も多く出ました。また、この研修パッケージはただ楽しいだけではない、重要な示唆を学校関係者や行政官に伝えることができたのではないかと今回のWSを通して感じました。学校関係者や教育行政官はこれまで、少なからず学校と地域住民の協働は存在すると認識していたと思います。しかしながら、彼ら自身、「協働」の意味することが何かをあまり把握できていなかったのではないかと思います。このWSを通して、参加者は、これまで学校運営に関して、地域住民の協力を大きく依存していたことを反省し、学校側も自分たちの学校のことをきちんと知り、それを地域住民に対して説明責任を負う重要性を理解してくれたのではないかと考えています。そして、自分たちの学校のことを案外知らないという現状、自分たちでリサーチする大変さやおもしろさも感じ取ってくれたのではないかと考えています。

**F:** 東シオア県対象のWSでのエピソードなんですが…。

「Discover our school」のトライアル(しんひぶん 24号参照)に協力してくれたボレ小学校の主任が立ち上がり、みんなの前で話を



始めてくれて…。「我が校でのトライアルは反省だけだ」「セッションⅠの調査の方法も、セッションⅡでの分析の仕方も、満足できるものではない」「けど、この2つのセッションが大事なのだ!」と力説してくれ、調査や分析の仕方を、自分の反省を基に具体的に説明してくれました。2日目のWSのポイントは、まさに「調査・分析の重要性」だったので、生の声を聞いた参加者には大きなインパクトがありましたし、他のWSでも紹介することができ、HM研修の核を伝えることができました。

**H:** さて、今年も例によって、直前の会場変更等々のハプニングがいろいろありましたが、中でも停電には本当に泣かされました。とにかく、行く先々でことごとく停電に遭いましたから…。今回は、「統計管理」などパワーポイントで説明したほうがずっとわかりやすいコマが多かったので、参加者には本当に申し訳なかったのですが、電気のない学校では、こういう環境で研修をやるんだからと自分に言いきかせて、もう最後の方は開き直って手書きの表を使って説明しました。

**F:** そうだね。WSの最中も大変だったみたいだけど、夕食の時間も停電で困っていたよね。チロ(西ハラルグ県)でのWSが無事終了し、おいしいティプス(焼肉)をつまみにビールを飲んでいたら、「停電で外には行けないし、夕食はどうしよう?」というメッセージが、ハウイから届いていたしね(笑)。



日陰はとても寒く、日が当たる場所はとても暑く、最後まで日陰にいた進行役のスタッフとZEO担当者は、凍えていました(笑)。



私のチームは停電の問題はなかったのですが…、同時期に急遽開始されたGEQIP(教育の質向上のためのプログラム)の現職教員対象の研修のおかげで(先月号のしんひぶん参照)、もともとアレンジしてあった会議室が使用できなくなり、それでもZEOの会場を貸してもらったんですが…。とっても狭く、1日目のWSは座学でしたので、なんとかできたものの、2日目のWSは外でやるというハプニングもありました。ま、楽しかったけどね!

H: 最後に、エピソードを一つご紹介します。西アルシ県では、WSが終わった翌朝は、ピハラウィ小学校を訪問しました。校長室にはフォルダーがずらりと並び、さらに、このフォルダーには、すでにWSで使った配布物がきちんとファイルされていて、ビックリ！この学校ではプロジェクトから供与した発電機をうまく活用していて、夜間の成人クラスに大変役に立っているとのこと。発電機の設定・接続は学校の警備員がボランティアで、また発電機の燃料代は地域住民の寄付金で賄われているそうです。



研修翌日には、きちんとWSで配布した資料がファイルされていました！

F: すごいね。こんな校長をはじめ、本当に頭が下がる関係者がたくさんいるから、我々も「頑張ろう」と思えるんだよね。WSの1日目に、昨年度のHM研修の実施状況について質問したよね。あるCRC担当官は「中心校と衛星校を含めて、24回HM研修を実施しました。」だって！6月末から9月の中旬まで学校は休みだから、実質8〜9ヶ月しかない中で24回だから「月3回」のペースだよ！11月時点でOEB/JICAに提出された研修報告書によると、HM研修実施の総回数は323回、研修受講者の総数が19,732名だって！先述の24回のCRC担当官からの報告書は、その時点では8回分だけだから、実際のHM研修回数や受講者数は、もっと多いと思うよ。プロジェクトから予算を一銭も付けないのにこの数字！今回のDiscover our schoolも、どんな報告があがってくるのか本当に楽しみだね。こんな風にワクワクできることに感謝しながら... ハワイとバシャドウ、WS本当にお疲れ様でした！



## ガラナ参上！

～ だいま！またまた着任しました～

まいどども。三度目の菊池ガラナでございます。皆さんお元気でしたか？ まあたオマエか、今度はなんだ?! ですか？ ですよ。

はいはい。ええと、今回はですね、準備。1年目の研修のテーマは「気づき」でした。2年目は「分析」で、3年目の今年は「計画」へと続くわけなんですけど...、この3年目の研修が結構キモなのかな、と思うわけなのです。1年目は研修教材を持って行って、これやってみて、というスタイル。外的な働きかけ、ってやつです。2年目はテーマとトピックを絞って、これについて調べたり考えたりしてみよう、という感じで、1年目より参加者の自発性とか内発性に拠るウエイトがちょっと重い。



ガラナがこれまでに開発した  
研修教材や投稿雑誌の数々

3年目の「計画」は当然そのまま「行動」へと繋がらなきゃいけないわけで、つまり「自分たちでやってみよう」という気分を掘り起こすものである必要があるわけです。外的働きかけから内発的なものへ、漠然とした意識とか気持ちから徐々に具体的な行動へ、という流れを作りたいんですが、この3年目をきちんと「嵌めて」いかないと、せっかくここまでいい感じできている勢いみたいなものを、壊す恐れもある。でしょ？ ので、これまでのレビューも含め、どういうスタイルなら皆が「ノッて」くれるのか、ちゃんと調べましょう、考えましょう、というのが今回の主旨です。でも、Ho! ManaBU プロジェクト的には、それだけでは帰れないので、去年作ったマガジン「ODA」の第2号とか、それを軸にしたメディア戦略なんつーのも考えてみようかな、という感じですよ。（あのね、Ho! ManaBU、ひょっとしたらラジオとかに進出するかも、ですよ。ふふふ。でも、...誰がやるんですか...?）というわけで今回は2ヶ月。よろしくお願いします。ではでは。（菊池ガラナ）